

第 93 回日本医療機器学会大会

■大会テーマ：医療技術、医療機器産業の明日を考える

■会期：2018年5月31日（木）～6月2日（土） ■会場：パシフィコ横浜 アネックスホール

医学・医療の質の向上と人類の健康と福祉に貢献することを目的とした「第93回日本医療機器学会大会」が開催され、テクノアスカでは、酒井順哉教授をはじめとする共同演者と共に「演目名；輸液ポンプにおける流量・予定量の設定ミス回避する4点照合システムの開発研究」の発表を兼ねて展示をしております。



◆4点照合システム

従来の3点照合に加え、輸液ポンプやシリンジポンプの流量・予定量の誤設定を防止するために、病院情報システムの注射オーダーで輸液ポンプを使用する際、医師があらかじめ流量・予定量の設定指示を入力することで、輸液実施時に患者IDに紐づけられた輸液バッグのバーコードを携帯端末で照合するとともに、輸液ポンプから送出される流量・予定量の設定値とを突合する4点照合システムの開発を試みました。結果として、患者と輸液ポンプとの紐付けにより輸液ポンプ稼働状況の遠隔監視や警報通知が可能になりました。

4点照合システム

- 従来の3点照合に加え、輸液ポンプの設定値を照合し誤設定を防止
- 患者と輸液ポンプとの紐付けにより、輸液ポンプ稼働状況の遠隔監視や警報通知が可能
- 電子カルテや部門システムとは独立したシステムのため、スムーズな導入が可能

4点照合の操作フロー

START 注液稼働行
CHECK 1 医師者のバーコード読み
CHECK 2 患者のバーコード読み
CHECK 3 輸液ポンプのバーコード読み
CHECK 4 輸液ポンプとのペアリング/通信

稼働状況の遠隔監視イメージ

口演101) 輸液ポンプにおける流量・予定量設定ミス回避する4点照合システムの研究開発
酒井 順哉 (名城大学大学院都市情報科学研究科保健医療情報学)
高橋 秀典、高井 崇治 (ニプロ(株)企業開発技術事業部)
可児 忠夫 (㈱テクノアスカ ITシステム部)
久野 栄治 (㈱テクノアスカ 医療事業部)
加藤 稔、宮田 裕一朗 (アイニックス(株) 西日本事業部)

定を防止するために、病院情報システムの注射オーダーで輸液ポンプを使用する際、医師があらかじめ流量・予定量の設定指示を入力することで、輸液実施時に患者IDに紐づけられた輸液バッグのバーコードを携帯端末で照合するとともに、輸液ポンプから送出される流量・予定量の設定値とを突合する4点照合システムの開発を試みました。結果として、患者と輸液ポンプとの紐付けにより輸液ポンプ稼働状況の遠隔監視や警報通知が可能になりました。